

わたしたちが運ぶのは未来です
運輸省



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局
清水港工事事務所
御前崎港事務所
下田港事務所



下田港双胴型ケーソン据付風景

年頭にあたって

東坡肉のこぼれ

所長 善見 政和

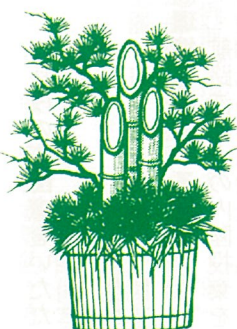
東坡肉（とんぼろう）は、中華料理の代表的メニューの一つで、11世紀の北宋時代の詩人、蘇東坡が作った料理です。わが国では「豚の角煮」として親しまれています。沖縄には、黒砂糖と泡盛で豚肉を煮込んだ角煮料理があり、また長崎では、しっぽく料理の一品として有名です。

蘇東坡は有能な役人で、最後には宰相にまでのぼりつめた人ですが、剛直な性格から政界の対立抗争にまきこまれ、再々地方勤務を経験した人です。また土木事業にも造詣があり、杭州の知事時代には西湖に堤防を築き、蘇堤として名を残しています。蘇東坡は、楽天的な性格でもあり、各地を歴任し、流刑にすらあっても、その土地なりの生活を楽しみ、詩を残し、人々に親しまれた役人でした。地元の人々から豚肉を贈られると、調味料で煮込んで皆にふるまい、名前は料理名となり、詩文とともに900年以上も残っています。

さて今年、清水港では、水深15mの国際級のコンテナター

ミナルの早期着工が強く求められており、関係者とともに鋭意努力中です。御前崎港では、コンテナも扱える多目的外貿ターミナルに現地着工することになっていますし、下田港でも、新構造防波堤の整備を着実に進めることにしています。こうした直轄事業の実施や各地の港湾関係事業への支援・協力をつうじて、「市民に親しまれ、地域とともに発展する港づくり」をめざして全力を尽くしてゆく所存です。

年頭にあたり、蘇東坡の「春宵一刻值千金」を改めて読み返し、地域とともに生き、地元の人々に親しまれた大詩人の足跡に思いをめぐらし、静岡地域の発展のために、我が事務所の事業や我々の活動がいささかなりとも役に立つことを念願して、東坡肉を着て静岡の地酒で乾杯しました。



静岡地域の みなとを考える 市町村長懇談会



効果的・効率的な港湾整備をめぐって五建管内（静岡県・愛知県・三重県）で随時開催してきた市町村長との懇談会は、当清水港工事事務所が、さる12月3日に開催した静岡地域をもって終了しました。当管内では、11月11日の伊豆地域に引き続き開催したもので清水市、富士市を始めとする9市町の首長にお集まり頂き、第9次港湾整備五カ年計画・第6次海岸整備五カ年計画の具体化に向け、直接、第五港湾建設局長が意見・要望等を聞いたものです。首長からは、国際交流インフラ推進事業採択への強い要

望や、町づくりと港づくりの連携、災害に強い港づくり、港を核にした観光レクリエーション振興などについて活発な意見、要望が出されました。これに対し、早田局長は、五建としても実現に向け積極的に支援して行きたいと控え、オプザバーの静岡県も交え、熱気あふれる懇談会となりました。

懇談会出席者

- ・ 宮城島清水市長
- ・ 中村富士市収入役

（富士市長代理）

- ・ 下村御前崎町長
- ・ 楠田相良町長
- ・ 横 大井川町長
- ・ 大石榛原町長
- ・ 竹中舞阪町助役

（舞阪町長代理）

△当 局▽

- ・ 早田五建局長
- ・ 善見清水港所長
- ・ 他幹部職員

△静岡県（オプザバー）▽

- ・ 齋藤土木部港湾担当参事
- ・ 渡邊港湾課長
- ・ 大村港湾企画室長

市町村長からの 主な意見

① 国際交流インフラ推進事業の推進

- ・ 港湾と高規格道路を直結させ、物流機能の向上を図る「国際交流インフラ推進事業（建設省との連携事業）」に採択してほしい。

- （清水市、御前崎町、相良町）
- ・ コンテナ貨物等の増加に対応できる、水深で広いヤードを有する国際級の物流ターミナルの早期実現をお願いしたい。

（清水市、御前崎町、相良町）

- ・ 既設の岸壁に荷役機械の設置をお願いしたい。

（御前崎町）

② 町づくりと港づくりの連携

- ・ 物流機能に関する整備だけでなく、都市と港との調和のとれた整備が必要であり、ウォーターフロントの再開発事業を進めたい。

（清水市）

③ 災害に強い港づくり

- ・ 災害時の海上輸送の拠点としての防災拠点や、耐震岸壁の整備促進をお願いしたい。

（清水市、富士市、御前崎町）

- ・ 津波対策としての海岸高潮事業や、浸食対策事業の整備促進をお願いしたい。

（清水市、富士市、相良町、大井川町、榛原町）

④ 地域の活力を支える港づくり

- ・ 船舶が大型化しているため、岸壁の水深深化改良工事の促進をお願いしたい。

（富士市）

- ・ 町管理の港としていくつもの課題を抱えており、国・県の支援をお願いしたい。

（大井川町）

⑤ 港を核にした観光レクリエーションの振興

- ・ マリントウシッププロジェクト調査で検討されたプレジャーボート用施設、海浜公園、オートキャンプ場、観光船待合所等の整備促進をお願いしたい。
- また、2004年の園芸博の海上ルートの拠点としての港の整備をお願いしたい。

（舞阪町、新居町、雄踏町）

- ・ 海水浴場の砂利化が進んでいるため、その解決策

に特段のご配慮をいただきたい。

（榛原町）

⑥ 環境と共生する港づくり

- ・ 航路浚渫土の内陸投棄をやめ、臨海部に廃棄物処分場を確保するとともに、浚渫土砂の農業用耕作土への利用など、県でもリサイクル技術の開発に取り組んでおり、環境保全を図りたい。

（富士市）

- ・ 市民の親水レクリエーションの場として、港湾空間に親水機能を有する護岸などの施設整備をお願いしたい。

（雄踏町）

- ・ 藻場の復元に配慮した港湾施設の整備をお願いしたい。

（相良町）



静岡経済同友会 (環駿河湾委員会) 清水港と御前崎港を視察

昨年12月9日、静岡経済同友会の環駿河湾委員会(秋野壽三夫代表幹事(島田信用金庫理事長))の清水港と御前崎港の視察会がありました。

参加したのは、静岡県内の各種企業の社長で、まず御前崎港では当所御前崎港事務所(事務所)で説明を受けたのち、当事務所の監督測量船「ふじ」で海上から御前崎港の施設を視察しました。清水港では、監督測量船「まさき」で海上から清水港の港湾施設を視察したのち、清水港工務事務所で見所長より、清水港と御前崎港の現状、両港の新港湾計画等の説明を受けました。



説明では、清水港の現有のコンテナターミナルは水深が12mと浅く、ヤード不足から

も能力が決定的に不足しているため、欧米等の基幹航路に対応できる水深15mの新しいコンテナターミナルの整備に着手する計画について紹介しました。また、御前崎港では、水深14mの多目的外貿ターミナルに今年度末現地着工する

が、御前崎港は県西部の窓口として期待の高い港であり、清水港との2港で駿河湾港として日本の新しいゲートウェイとすべく、当事務所も全力を尽くすと説明しました。

委員会の方々は、これから清水港整備計画、御前崎港整備計画に強く関心を示していました。

突発地震に備えて

東海地震が叫ばれてから20年、一昨年の阪神大震災を目の当たりにして、突発地震に対する様々な問題点が浮かび上がってきました。

- ① 職員の避難場所の特定と安否の確認方法
- ② 災害対策本部の設置場所
- ③ 港湾施設の被災状況調査や復旧の方法と範囲
- ④ 工事安全協議会等との協力体制の確立
- ⑤ 庁舎や現場の保全措置
- ⑥ 食料・携帯電話・トイレ等の防災用品の充実などを検討項目として、防災体制の整備を所内で昨年度は、職員の行動を中

心とした手引きを作成しました。これまでの机上の考えであったものをより実践に即した形でまとめました。

今年度は、迅速な被害状況調査や応急対策の推進のため、①清水港管理局と調査・復旧範囲の手分けや庁舎被災時の場所提供等について②清水港港湾建設工事安全協議会と調査・復旧の協力について③静岡観光汽船(株)と緊急時の用船について④日本潜水協会と潜水士の確保についてそれぞれ覚書を取りかわし、協力体制を確立しました。

更に、各所に簡易トイレや携帯電話を配置し、また被災状況調査の方法を中心とした手引きを作成しました。

今後、御前崎、下田についても地元での協力体制の調整を図るとともに、広範囲に亘る所内の連絡体制の強化、防災用品についても更なる充実を図っていく予定です。

清水の史跡 ⑩

☆ 田中孫七の住居跡の碑 ☆

三保の海苔 栽培の開拓者 三保の海苔は、文政二年(一八一九)、三保の住人で、遠藤兵蔵、遠藤芳蔵、川口英次郎らが貧しい生活の立て直

しに海苔養殖を試みたのがその起りです。

ところが、彼らは海苔の養殖をはじめたものの、ずぶの素人で、なんとかして、専門家の指導を得たいと熱望していました。そこで彼らが世話人となって江戸大森から田中孫七という人を招いて、教えを受けることにしました。

孫七が三保で養殖をはじめたのは、その年(文政二年)の秋で、四十六歳の時であります。彼は私財を投じて苦心に苦心を重ね、「おれが海苔か、海苔がおれか」ところまで、身を命をささげなくては駄目だ。親が子を自分と一心同体で考えているように」という思いで八年の歳月を費やして成功しました。

天保四年(一八三三)さらに、清水や江尻に伝わり、三保海苔の聞こえは、広く知れ渡りました。

そして彼は、偉大な業績を残し、八十四歳で帰らぬ人となり、その碑は、御穂神社に建てられています。



御前崎港 事務所だより

♥ イメージアップ看板完成

御前崎港を一望できる坂の中腹に、現在施工中の防波堤(西)築造工事のイメージアップ看板が完成しました。

看板の片面には、21世紀の御前崎港予想図、裏面には御前崎港周辺の航空写真と、岸壁・防波堤の規模と製作工程等を分かり易く説明しています。

予想図は、実際の港と比較でき、見る人のイメージを膨らませます。



♣ 御前崎ポートセミナー'96開催

静岡県中西部地域の企業に御前崎港の利用促進を訴える「御前崎ポートセミナー'96」が御前崎港振興会と静岡県の主催で11月25日掛川市で開催されました。

セミナーには、企業関係者、自治体、商工関係者等約10

0名が招待され、当事務所からは善見所長、牛田工場長が出席しました。

当セミナーは、平成6年9月に改訂された港湾計画に基づく整備と、背後における第二東名自動車道や三遠南信自動車道、静岡空港等の開発プロジェクトの進展により、県中西部における流通拠点としての発展が期待されている御前崎港で、今後一層の利用が期待される県中西部の企業に対して御前崎港の整備計画の内容やその将来性、利便性等についての理解と認識を深めるPRを行い、利用促進を呼びかけることを主な目的として開催したものです。

主催者の御前崎港振興会、静岡県では、今後も様々な形でポートセールスを行っていくこととしています。

▲御前崎温泉オープン

12月20日、御前崎の新名所として「御前崎温泉」鯨（がわ）がオープンしました。御前崎では初めての天然温泉で入浴はもちろん食事もできる施設となっています。御前崎にお越しの際はぜひ立ち寄りたいスポットです。

下田港

事務所だより

◆双胴型ケーソンの据付終了！

去る11月17日に、平成7年

度工事で制作され7月末に進水・仮置されていた消波ブロック内蔵双胴型ケーソン第1号の据付が完了しました。当所、据付日は11月13日の予定でしたが、11月12日頃から低気圧の影響が強まり風速10メートル、波高6・8メートルと、据付を行える状況にはほど遠かったため、11月17日に延期になりました。作業当日は、新聞社テレビ局などマスコミの関係者も数多く取材に見え、あらためてこのケーソンにかかる注目度を感じることができました。作業は早朝6時よりケーソンの排水が開始され、仮置されていたケーソンが再び下田の海に浮かび上がりました。据付は二千二百屯吊りの起重機船で行われ、既設防波堤から東へ160m離れた据付位置まで曳航されトランシット（3台）により誘導据付が行われました。据付時、海上では約風速8メートルの南西の風が吹き難しい作業となりましたが高精度で据付が完了することができました。

その後、中詰め砂の投入、被覆石投入も完了し、残すは上部工のみとなっています。今回のケーソン据付の一連工事では、基礎石の本均しに水中均し機を使用した作業や、注排水管理システムの使用、また、今回は使用とまではいか

なかったものの来年度以降の据付では力を発揮しそうな船位誘導装置（GPS）など、新しい試みを多く行いました。また、ケーソン自体も超大型且つ複雑な構造であることから、今回施工性や安全性などの面で検討された点を、次の2函目に役立てることで、今回この1函目の本当の完成になることと思っています。

※写真は表紙を御覧下さい

コラム

管内技術報告会・優秀賞受賞

「第30回管内技術報告会」が11月14、15日の両日名古屋港ポートビルにおいて開催されました。これは五建管内の各事務所や、本局各課において検討したり実施されている技術的テーマについて毎年発表するもので、今回が30回目にあたるものです。当清水港工事事務所からは「下田港防波堤消波ブロック内蔵双胴型ケーソンのひびわれ対策について」と「同ケーソンの施工について」と題して2件が発表されました。当日は100名を超える聴講者が集まりましたが、当所の発表はその内容や発表方法などが高く評価され、2件とも優秀賞を頂くことができました。新構造ケーソンへの認識と期待の大きさを改めて感じた次第です。

（大塚尚志、横山裕司）

清水港への入港 客船・帆船案内

新さくら丸（客船） 1月6日 14時 第29回青年の船	ニユーゆくとあ（客船） 3月24日 8時 第12回テレビ寺子屋	ニユーゆくとあ（客船） 4月1日 10時 第12回テレビ寺子屋	希望（TSL防災船） 4月1日 清水港入港予定
-----------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------

※気象状況等の都合により、日程等が変更になる場合があります。
お出掛け前に、清水港管理局
☎五三一三〇三三でご確認ください。

▲関連ニュース

昨年3月、清水港の日の出埠頭で一般公開し、600名の市民の皆様に見学いただいた「清龍丸」（浚渫兼油回収船）は、先般島根沖で沈没したロシアタンカーから流出した大量の重油の回収作業に緊急出動しました。

↑Eメール頂きました

パナマの日本大使館の方から、もっとホームページの宣伝をするようにと激励のメッセージを頂きました。本年も当所のホームページをよろしく願います。（本誌欄外にアドレス）

管内の動き

- 12月 3日 静岡地域のみなとを考える市町村長懇談会
- 6日 清水港開港100年企画部会
- 9日 静岡経済同友会御前崎港、清水港視察
- 9日 清水港開港100年記念事業企画準備会議幹事会
- 9日 下田・武ヶ浜地域まちづくり基本構想策定幹事会
- 19日 静岡県TSL運行安全対策委員会
- 20日 清水港開港百周年企画・準備会議役員会・総会
- 1月 6日 清水港港湾関係7団体新年名刺交換会
- 7日 静岡及び清水商工会議所合同賀詞交歓会
- 14日 参議院運輸委員会事務局清水港及び清水灯塔視察
- 17日 下田・武ヶ浜周辺地域開発構想策定委員会
- 21日 清水青年会議所所長講演
- 27日 清水港港湾文化活用調査委員会
- 2月 13日 清水港利用促進協議会西部地区貿易懇談会
- 3月 24日 御前崎港岸壁（14m）着工式

発行所
清水港工事事務所
〒424 静岡県清水市日の出町七一
TEL (〇五四三) 五一四一四(代)